

早生ウンシュウ新品種‘小原紅早生’の特性

森末文徳・大谷衛・豊嶋貴司・野田啓良

‘小原紅早生’の現地における樹体特性,生理生態的特性,果実特性及び場内における栽培特性,貯蔵特性について検討し,以下の結果を得た。

1. ‘宮川早生’と比較して,浮皮果の発生は少なかった。果皮の色は紅であったが,果実の甘味(糖度計示度),酸味(クエン酸濃度)は‘宮川早生’と同程度であった。
2. 果皮の紅色は,樹冠外部に着果した果実で濃くなった。
3. 袋かけ完熟栽培では,完全着色後に緑色袋の袋かけをすることによって,退色と浮皮が少なくなった。
4. 5°Cで 10 日間,その後 20°Cで 10 日間貯蔵することにより,果皮の紅色がさらに濃くなり,果皮色の個体間差が小さくなった。
5. 20°Cで 30 日間貯蔵することにより,果皮の紅色はさらに濃くなったが、ヘタ枯れの発生は多くなった。

キーワード:小原紅早生,新品種,特性,早生ウンシュウ